

## contents

- P1 入学式を終えて  
 P2.3 [特集] 初めての卒業生を送り出して  
 -初めての高等部卒業式  
 -卒業生保護者に聞きました  
 P4.5 [教員インタビュー]  
 -8年生修了式を終えて  
 数字で見るシュタイナー学園  
 P6 子育て Tips



最初の授業を待つ1年生教室

## 8人の新入生をお迎えしました

2021年4月10日(土)、少し肌寒い日でしたが晴天に恵まれ、新校舎北棟での初めての入学式が行われました。玄関からホールまでの廊下や階段の各所には国内のシュタイナー学校から贈られた花々が飾られ、高等部生徒の手による黑板报とともに新入家庭を迎えてくれました。

新入生8人は、名前を呼ばれるとひとりずつ花のアーチをくぐり、担任と握手をしました。「入学おめでとう」の言葉に「ありがとう」と応える子もいれば、緊張で固まっている子や周囲の様子に気をとられている子もいて、私にとってはいずれも微笑ましい姿でした。高等部の生徒たちは花冠を作ってくれました。そして、入学式では、それぞれの子の頭に花冠を載せ、生徒席の前にある小さな椅子に案内するところまで担当してもらいました。新1年生を担当する4人の専科教員の祝辞に続き、教員・生徒からそれぞれ歌が贈られた後、新入生は担任とともに最初の授業が行われる1年生教室へ向かいました。



最初の授業を終えて保護者が待つ会場に戻ると、ちょうど高等部生徒が入場曲を再演していました。式冒頭の新入生入場の際には「扉を開けたら誰も居ない」というハプニングに笑いが溢れましたが、このときはたまたま新入生の着席と終曲がぴったりと一致して自然と拍手が沸き起こりました。「素敵な入学式にもらった」という気持ちになる出来事でした。

コロナ禍で出席者を制限しての式となりましたが、列席をご遠慮頂きながら心を寄せてくださった方も含めて、入学式をよき日にくださった皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

1年生担任：竹村 寧乃

Special feature  
特集

# 初めての卒業生を送り出して



彼らの成長が、  
学園の歩みそのものでした。

高等部コーディネーター：中山誠子

2021年3月21日、愛知シュタイナー学園高等部1期生の2人が、学園を巣立って行きました。シュタイナー教育の12年間を学び終えた、愛知で初めての卒業生です。外は吹き降りの春の嵐でしたが、大きな桜が見事に活けられたホールは、若人の輝きとそれを祝福するたくさんの人の思いにあふれ、光に満ち満ちていました。式の最後には、低学年の児童や保護者も会場に入り、「コスモス」の混声三部合唱が、そして「おめでとう！」の全員の声に続いてギター伴奏で「乾杯」の歌声がいっばいに響き、初めての卒業式の場をとにもすることの喜び、幸せを参加者全員がかみしめた時間となりました。

1期生が入学する年に現在地に移転し、入学前の親も教員も総出で古い民家を改装するところから学園生活は始まりました。何もかも初めてのことばかり、足りないものばかりの中で、本当に必要なものは何かを教えてくれ、学校づくりを導いてくれたのは子どもたちでした。教室が足りなくて、サテライト教室と母屋、市民会館やにぎわい交流館などを



楽器や黒板まで抱えて行き来する苦勞を乗り越え、明るく学ぶ姿は新校舎建設を後押ししてくれました。延期していた北棟着工を決意できたのは、「1期生を新校舎から卒業させてやろうよ」という低学年のお父さんの言葉もあってのことです。

常に最上級生として先陣を切り、学園の顔となる立場を引き受けてきた11・12年クラス。ピュアな感性を全開に、すがすがしいパフォーマンスで観る者を感動させてくれました。

こんなふうに育つんだという姿を見せてくれる彼らの成長が、学園の歩みそのものでした。ほんとうにありがとう。新しい出発、おめでとう。



卒業生  
保護者インタビュー  
parent interview

卒業生保護者

池田 真知子さん

卒業式を終えて、今どんなお気持ちですか？

涙、涙の感動的な卒業式でした。式の最後に、サプライズで低学年の子どもや保護者たちも加わって「乾杯」を歌ってくれました。娘は「乾杯ってあんなに良い詩だったんだね」と、とても感動していました。

12年間で特に印象的なことは何ですか？

4、5年生のころ、「この学校に入れてくれてありがとう。本当に入って良かった」と言ってくれたことです。学園の先生は日々、扉の前で先生自身の悩みや疲れなどを必ず全部脱ぎ捨ててから教室へ入るそうです。教室から出てくる先生の雰囲気がとても崇高な空気をまとっているのを感じたことがあります。きっと、そのおかげで子どもたちも学びを楽しんでいられたと思います。子ども同士でいろいろあった時期も、授業は受けたいから行く、と言っていました。

12年間で特に大変だったことは何ですか？どのようにして乗り越えましたか？

秋祭りという行事を保護者主催でやることになり、運営に関わり始めました。保護者同士で話し合い、1から作り上げていくことばかりでした。

最も大変だったことは、12年生で「受験に専念したいから学園を辞めたい」と娘が言ったときです。家族としては本人の意思を尊重して学園を辞めることも考えましたが、先生方とよく話し合い、クラスメイトの協力もあり、工夫して勉強の時間を確保しました。結果として1校は大学に合格できましたが、本人はもっと上の大学を目指したいと、もう1年勉強することにしました。

お子さんの成長を振り返ってみてどうですか？

一貫して学びたい意欲が養われたと思います。学ぶ意欲が高まるにつれて、周囲への意思表示もできるようになりました。先生方に自己主張をぶつけられるようになったときもうれしかったのですが、さらに、ちゃんと伝わっているか確認し、話し合えるようになりました。

入学を検討される親御さんは、しばしば卒業後の進路を心配されます。それについて、入学時にどのような想いを持たれていましたか？また、現在までどのように向かい合ってきたら来ましたか？

「海外留学したい」と言うかな、なんでも好きなことやったらいいよ、ということ目指すのかな、とわくわくしていました。入学してからは本人も自由にいろいろな夢を語ってくれました。

10年生のとき「大学に進学したい」と意思を伝えてきました。娘は映画が好きで、映画に携われる仕事がしたい、そのために大学に進学したいと思ったようです。そこで、高卒認定試験を受けるための勉強が始まりました。受験勉強に向かう姿勢から、長期間持続して目標を達成する力が養われていると感じました。

娘にはたくさん苦勞して、その中で心を許しあえる人いっぱい出逢ってほしいです。本人も「ドキドキだけどやるよ」と新しい世界に自ら出ていこうとしています。

入学を検討しているご家庭の方に向けて、シュタイナー教育の魅力を1つ教えていただけますか？

親の想像を超えた成長をするわが子に驚かされます。先のことを見据えた上で今どうするのかを考えていたり、自分がどういう人間かということ視野に入れていたりして、個性が伸ばされていると感じています。

「学びたい」気持ちと、  
長期間持続して目標を達成する力が  
養われました



ご卒業おめでとうございます



## 卒業生 保護者インタビュー

parent interview

# 人間を人間（大いなる存在の子）として 育ててくれた教育

卒業生保護者  
釋 潮観さん

### 卒業式を終えて、今どんなお気持ちですか？

「そらとなる心は春の霞にて、世にあらじと思ひ立つかな」と詠んだ西行の境地を想います。

### 12年間で特に印象的なことは何ですか？

子どもの生育は、ずっと横ばいで最後の最後に急上昇するという。日々吸収したものが突然インタラクティブに発動し始める。だから8年生くらいまでの親の辛抱が必須であること。レスポンスに時間がかかるほど価値が高い。

### 12年間で特に大変だったことは何ですか？どのようにして乗り越えましたか？

親の成長した成果が子どもに現れる。直接子どもをいろいろ、つくろわず、もとのまま養う。これに理性的に取り組む親次第と心得てきました。ここまで乗り越えられたのは先生方のこの教育による取り組みのおかげです。

### お子さんの成長を振り返ってみてどうですか？

先生に膝枕をさせてもらって授業を受けていたこともあった低学年。オイリュトミーやエクストラレッスン、また、行動を制止するのではなく、先生が本人の様子を見てその内面性を知り対応してくださる日々のおかげで今のような彼に成長できました。

入学を検討される親御さんは、しばしば卒業後の進路を心配されます。それについて、入学時にどのような想いを持たれていましたか？ また、現在までどのように向かい合ってきたら来ましたか？

近代教育の崩壊により、学力や才能や学歴など人材の目安が刷新される日が来るという確信に近いものがあり、入学を決断しました。科学的社会学に基づく機械的な人材育成法そのものが破綻しているために、現在の経済状況があると思います。

その子特有の出番と役目があります。いかに技術革新が起ころうともAIには出来ないでいて、需要が伸びる仕事があります。それは人間のこの世界における本当の役目であり、人間たらしめるものなのでしょう。それは子どもというより、世界に対しての親の目覚めによって子どもにもたらされるものだと考えます。

学びとはとても楽しいものであるという感触や、知らないことに出逢う喜び、知性（知能ではない）の自由度を獲得することに生命力は宿るといふこと、これらはいずれ日本人の社会的地位基準となるとされます。そして、詰め込み式の能力教育では得られない学びが、シュタイナー教育にはあります。

### 入学を検討しているご家庭の方に向けて、シュタイナー教育の魅力をもつて教えてくださいませんか？

人間を人間（大いなる存在の子）として育て、機械にしまわれないための具体的な対応のあり方を示し、親や教師に注意を促していることです。

ルドルフシュタイナーの「畏敬の念を持って迎え…自由へと解き放つ」という言葉の通りです。

その大人の子に対する配慮がなければ、人を見惚れさせ、武力をもたずして世を動かし、人の仲を和らげ、闘争心を慰める人間の特有さを失ってしまいます。

## 教員インタビュー



# 高等部に向けて 日々積み重ねてきたもの ～8年生修了式を終えて～

TEACHER  
INTERVIEW 01

## 堀田由佳 先生

2008年9月より、ドイツのシュトゥットガルト自由大学 (Freie Hochschule Stuttgart) にて、シュタイナー学校のクラス担任コースと音楽専科教員コースを学び始め、2010年7月に修了。その後帰国し、2011年より愛知シュタイナー学園にてクラス担任として勤務。



— 2学期には日本の伝統芸能である「狂言」を学び、生徒5人が学期祭（1学期に1回行われる学内発表会）で堂々と披露し、成功をおさめました。

プロの狂言師の先生に毎回3時間ほどのレッスンを7回受け、発表を迎えました。8年生の学びは、「自分の好きなように自由にやってみよう」というものにはまだありません。低学年の時ほどではありませんが、先生による“型”がある中で学びます。“決められた所作の中で自分の力を出し切る”という貴重な経験ができました。

私のクラスの生徒たちの場合は、お互い察しが良すぎる場所があり、普段から口に出して意見を言い合うことが苦手でした。狂言の稽古で、大きな声でセリフを言ったり、大きくのびやかな先生の声を真似たりという経験は、日常の中ではっきりと声を出して自分の考えを伝えやすい雰囲気を作り出しました。それと同時に、授業での積極性も増しました。狂言体験を経て、生徒たちが“外に向かって開いていく”様子を目の当たりにすることができました。



8年生 狂言発表会  
狂言師 井上松次郎氏を講師に迎え、稽古を重ねました。

シュタイナー学校では、基本的に1年生から8年生まで1人の担任の先生の前で学んでいきます。

担任の先生との最後の1年である8年生は、入学してからの集大成となる授業が目白押しです。

昨年度、3月25日に8年生の修了式を終えた堀田由佳先生にお話を伺いました。

— 8年間お疲れ様でした。振り返ってみて、堀田クラスはどんなクラスでしたか？

最終的に私のクラスは女子5人でした。最初は男子もいたのですが転出もあまして、女子5人という期間が長かったです。クラス全体の特徴としては、内にこもるところがありましたので、外に向かって自分たちを表現していけるように……というのはこの8年、苦心した部分ではあります。特に最後の3年ですね。

— 1学期には、自分でテーマを決めて研究し、作品を作り上げ、1人ずつ30分のスピーチと質疑応答を行う「8年生プロジェクト」がありました。

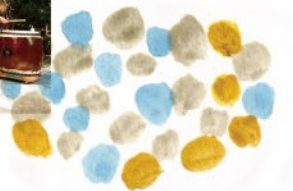
新型コロナの影響で2ヶ月くらい生徒と会えない状況のなか、毎週ご家庭に電話をして生徒と話し、進捗状況を聞き助言をしていました。担任はあくまでアドバイザーとして関わり、親御さんも含め大人が手を出しすぎないようにしました。クラス担任の役割は、生徒が自分で決めたテーマの学びを深め、発表できる形にまとめ上げ、学内保護者や生徒の前でスピーチと質疑応答ができるように導いていくことです。しかし、私はそれとは別に“自分を知ること”も大事なテーマだと考えていました。例えば、一つのことに集中して取り組むことが苦手な生徒の場合は、すぐにテーマを変えようとしがちなので、一つのことを最後までやりきることを学んで欲しいと考え、対話を重ねました。生徒たちは、自分が調べたいことを時間をかけて調べ、作品を作ったという経験とは別に、「終着地点が最初に決めていた所と全然違うところになってしまった」「アイデアが出すぎて、最後までとまらなかった」と、個々が様々な気づきを得ることができました。“自分の形”について、それぞれ何か見えたものがあった発表だったと思います。



4年生 ミカエル祭  
5年生 古代オリンピック  
6年生 ジャグリング  
7年生 和太鼓

— おとなしい生徒が多いクラスで、担任としてどのようにそこまで持っていかれたのでしょうか。

私には“外に対して自らを開いた、その先にある世界を生きて欲しい”という願いがありました。1学期の8年生プロジェクトでは、立派に発表はしましたが、自分たち5人だけの世界という殻を破り切ることはできませんでした。生徒たちは、教室では「漫才」をして笑い合っていたんです。でも、そういう姿をなかなかクラス外に見せることはありませんでした。2学期に、真剣に演じた狂言で、観客に思い切り笑って頂けたことで、生徒たちはクラスの外の世界と繋がるきっかけを得ることができました。その上で、自分の内と外を感じながら、みんなで協力しあいながら、時に喧嘩しながら5ヶ月間取り組み、大勢の前で3回公演を行った8年間の集大成「8年生劇」で殻を脱ぎ捨てることができました。



— 3学期に行った8年生劇は1時間半にも及ぶシェイクスピアの喜劇『から騒ぎ』でした。役柄を演じるだけでなく、舞台装置や衣装まで8年生自身で取り組みました。

劇を通して自分に向かい合い、練習を重ね、みんなで完成させて発表し、「良かった!」とみんなで喜んで、観客にも拍手をいただく……という過程も大事ですが、私の8年生劇のメインコンセプトは、「自分たちでやりたいことを見つけて発表し、計画して、各々が責任を持って（と言っても最後の責任は担任がとるのですが）最後までやりきる」というものでした。9年生から12年生までの高等部では、生徒たちがスポーツフェスタや音楽祭などのイベントを自主的に運営したり、新しいイベントを企画したりします。アイデアを出して、責任を持って動き、やり遂げる、ということを経験できる機会が多いです。世の中に出ていくための最後の4年間を思い切り動いて欲しかったので、「やりたいものを自分で見つけることができ、それをするにはどうしたらいいかを計画でき、そのために実際に自分たちが動ける」、その3つの力を8年生劇で身につけてから高等部が上がって欲しいと願い、指導にあたりました。実際は、計画性という意味では、女子ばかりでゆっくりとまどろんでしまい、時間は無限にあると思っている節がありました。そのため毎週行った係り発表（大道具係、衣装係など）の中で、「この1週間何をしましたか？これからは何を予定ですか？これはいつまでにやるのですか？そのために必要なものは何ですか？」といった質問を投げかけ続けました。最終的にタイムオーバーでできなかったこともありましたが、それはそれで大切な失敗の体験です。次に生かして欲しいと思います。



8年生劇「から騒ぎ」

— 社会に出ても、やりたいことがわからないという人が多いと感じます。

もちろん、卒業したあかつきに、やりたいことが見つからないということもあり得ます。ですが、探すなり、見つからないなら見つからないで生きていくなりしても、諦めや絶望というところではない生き方をして欲しいと思っています。見つからないなりに動いた中で見つかったり、少しずつ形になるものもあるでしょうし。いつか、「これだ!」もしくは「これかも?」と思える時がきたら、動ける身体であってほしいですね。

— シュタイナー教育の特徴の一つ「ひとりの教師が1~8年生まで8年間かけて子どもを担当し続ける」意味ですが…

8年間一緒ですから、担任は生徒にどのようにアプローチできるかを長いスパンで考えることができます。日々様々なことが起こりますが、8年という大きなくくりで生徒をみることができるので、教員は生徒の成長に寄り添い、丁寧に時間をかけて導いていくことができます。生徒のほうも、ひとりの担任の世界観に触れ続け、導かれ続ける8年間を過ごすこととなりますよね。長いからこそ、ごまかしはききません。8年間ずっとお互いに正直であらねばならなかったように思います。また、保護者の方とも連絡を取り合いながら子どもと一緒に育て続けた8年間でした。いろいろなことがありましたが「この子どものために何が1番良いことなのか?」を考えて動く事を最優先に、長い期間を走り抜けたように思います。

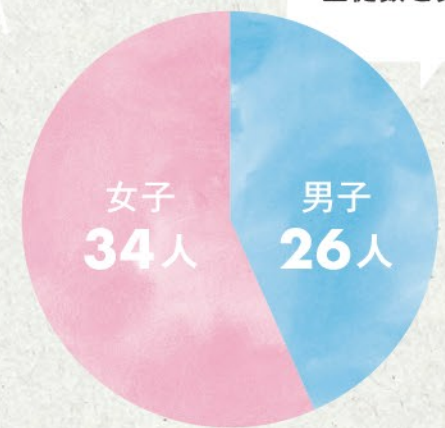
— 高等部に進学する生徒たちへ、クラス担任である堀田先生が伝えたことは何ですか。

「高等部では思いきりやりたい事をやりなさい」と伝えました。やりたいことが全部できるわけではないですが、責任をとるという気持ちを持ちながら、計画を立てて自らできる環境を作り出し、能力を出し切り最後までやりきりなさいと。これは日常的に、特に8年生になってからよく言ってきたことです。また、8年生修了式では、祝辞で「たくさんの方に挑戦してください」と言いました。「嫌だと思えることがあっても、そのなかに自分を成長させるきっかけが必ずあるので、高等部の4年間は必ず挑戦してください」と。大人もそうですけど、避けているもの、それが無意識だったりするのですが、嫌だと思えるもののなかに、人が成長できるチャンスがあることが多いかなと。社会人になったら自分の得意なことで挑戦していく場面が多いと思いますが、自分を育てる学生のうちは、苦手だなと思うものにも挑戦しながら、楽しみ、笑って、高等部生活を送ってもらいたいと思っています。

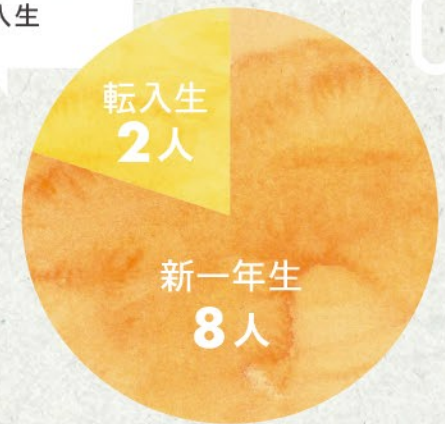
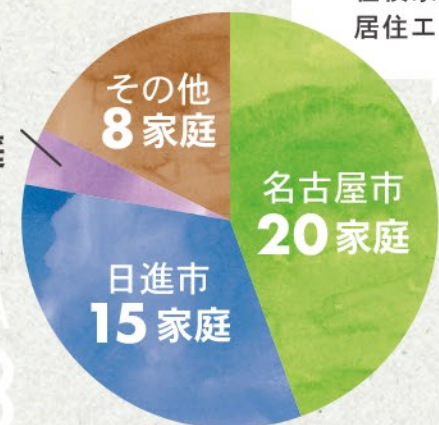
# 数字 でみる 愛知シュタイナー学園

DATA 01

生徒数と男女比

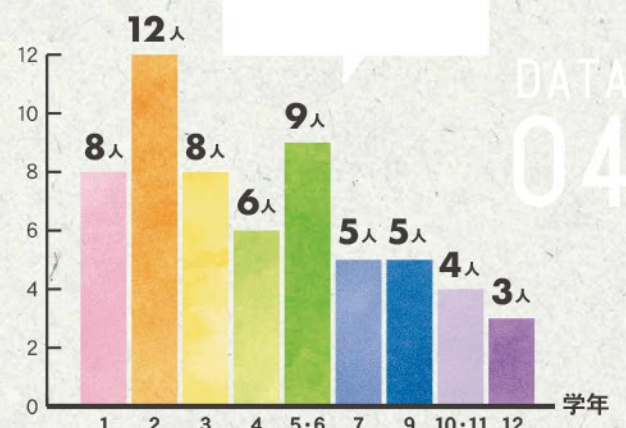
2021年度の  
新入生

DATA 02

岐阜県  
2家庭在校家庭の  
居住エリア

DATA 03

学年別生徒数



DATA 04

村上智先生の /

子育て

Tips

子育てに悩みはつきものです。親子の暮らしにまつわるあれこれをシュタイナー教育ではどのように考えるのか、毎回テーマを決めて取り上げます。幼児教育に長年携わり、現在学園4年生担任の村上先生に教えていただきました。

今回のテーマ

お片付け

たくさん遊んだあと、お片付けの時間。大きなおもちゃ箱に次から次へといろいろなおもちゃがごちゃごちゃに入れられて…。これではゴミと一緒に。おもちゃを大切にしようという気持ちも育ちませんね。

遊びがどんどん発展していくと、おもちゃもどんどん床に広がっていきます。遊びに夢中の子どもの心の中はファンタジーに溢れています。例えば、電車ごっこが始まりました。まずは椅子を並べて電車を作りますね。運転手さんは先頭に座り、車掌さんのアナウンスが始まりお客さんが乗り込みます。切符も必要ですね。用意が整ったところで出発進行！「ガタンゴトン、ガタンゴトン…」もう気分は最高潮、電車は線路の上を疾走していきます。やがて駅に到着。次のお客さんが乗ります。1人遊びだったら車掌さんやお客さんは、お人形がその役をやっているかもしれません。子どもたちは自分の体験したことからイメージを膨らませて、遊びの中でそれを再現します。

さあ、お片付けの時間になりました。その電車は今度はトラックになるかもしれません。今まであちこちから集めてきたものを、次々と元あったところへ配達していきます。配達がいよいよ完了したところお片付けも自然に終わっています。(そうならないこともあります)

お片付けの基本は、おもちゃを元にあった場所に戻すことです。おもちゃがある程度分類されていて、それぞれの「帰る家」が決まっていれば、お片付けの時間になったとき、子どもたちは喜んでおもちゃを元のお家に戻してあげることができると思います。または、宅配便の人によって配達されるかもしれませんが、お片付けの時間になった途端ふっと我に帰って現実に戻るのではなく、ファンタジーの世界のまま、お片付けも含めた遊び(この場合は電車ごっこです)の中で片付けが終わっている、というのが理想的ですね。

☑ 今後、取り上げてほしいテーマがありましたら、ぜひ学園までお寄せください。みなさんからのご質問をお待ちしています。

2022年度 新入生・転入生  
入学説明会のご案内

2021.6/6 日 9:30-12:00 [受付] 9:00~  
[参加費] 1000円/1人  
(ご両親で参加される場合はお二人で2000円となります)

開催内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シュタイナー教育の基本となるカリキュラムについて</li> <li>● 校舎・教室見学、学園の運営について</li> <li>● 質疑応答(願書の販売があります)</li> <li>※ 託児料: 3000円/1人(先着30名まで受け付けます)</li> <li>3歳未満のお子さんは、説明会に同伴することが可能です。お子さんの様子によっては一時退出などをお願いする場合があります。予めご了承ください。</li> </ul>
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2022年度4月以降の入学をご検討の方(年長・年中・年少のお子さんをお持ちのご家庭)</li> <li>● 2021年度の転入をお考えの方</li> <li>※ シュタイナー教育や学園の運営方針にご賛同頂くために、2022年4月の入学または2021年度の転入を検討されているご家庭は、できるだけご両親一緒にご参加ください。</li> </ul>
お申込み	右記の申し込みフォームからお申し込みください。 電話: 0561-76-3713 (受付時間: 月~金 9:00-16:00) ※ 定員: 50家庭(定員に達し次第締め切らせていただきます)

Webサイト・SNSで最新情報をご確認ください

隣接したQRコードを紙などで隠して読み取ってください。



オフィシャル Webサイト



オフィシャル ブログ



Instagram



facebook



公式 LINE

ニュースレターについて

愛知県で唯一の全日制シュタイナー学校「愛知シュタイナー学園」による発行です。教員と保護者の協力のもと、執筆からデザインまでおこなっています。子どもたちの学びと教員のまなざし、保護者の想いを四季折々に綴ります。

認定NPO法人  
**愛知シュタイナー学園 初・中・高等部**  
〒470-0115 日進市折戸町笠寺山42-13  
Tel & Fax: 0561-76-3713  
HP: <http://aichi-steiner.org>  
E-Mail: [aichisteinerschool@nifty.com](mailto:aichisteinerschool@nifty.com)

アクセス



来て  
見て  
触れて

校舎見学会のご案内

平日開催

**2021.7/15 木** 事前予約制

【午前の部】10:30-12:30  
【受付】10:00~  
【参加費】無料

内容: 2019年と2020年に完成した二棟の校舎や、日々の学びが展示されている各学年の教室見学、質疑応答など、約2時間の内容です。  
どなたでもご参加いただけます。  
※託児はありません。  
※詳細や申込方法は学園HPをご覧ください。

気分は「料理の鉄人」

3年生保護者父

うちはお弁当  
教えて  
日々のお弁当

**うちのお弁当**

妻 からお弁当係をバトンタッチして早1年余り…。でも、はっきり言ってお弁当作りって、ムズかしい!! ていうか、奥が深い…。もともと小さい頃から食事当番で晩ごはんを作っていたし、社会人になってからも一人暮らしが長かったので、どちらかといえば料理は得意なほうなのですが、お弁当ってどうしてもハードルが高くて、結婚してからもその領域にはなかなか踏み込めずにいました。妻の病気や仕事などの都合で弁当係を担うようになり、今では私が作るのが日常となっているのですが、未だに思うようにいきません。お弁当作りって、一言でいえば「要領の世界」だなあとつくづく感じます。タイムリミット差し迫る平日の朝に、いかに美味しく、彩り良く、栄養価高く、そしてそれらを弁当箱という限られた空間を使ってまとめ上げられるかという高度なミッション…。作っている最中、頭の中では勝手に「料理の鉄人」のテーマ曲と福井さんの実況中継が流れています。気分は道場六三郎、もしくは陳健一。フレンチは無理なので坂井宏行シェフは無いです。そんなわけで、最近はおつば栗原はるみさんの「お弁当100」と「ごちそうさまが聞きたくて」を愛読しています。

**ご寄付のお願い**

どのように社会が変わろうともそれに対応し、生き抜いていける、しなやかで独創性のある若者を育てる活動に、どうぞお力添えをお願いいたします。

詳しくはHPをご覧ください

[認定NPO法人への寄付に対する税金優遇措置について]

認定NPO法人へ寄付をする行為は、納税と同レベルで社会問題の解決に参加していることに該当すると認められ、所得税、法人税、相続税、地方税も、優遇措置が受けられます。学園発行の領収書を添付し、確定申告することで税制控除を受けられます。例えば10万円寄付すると、4割ほどが還付されます。